

**神が人となるふしぎ 1テモテ 2:4-8**2024. 12. 15、合同 NO. 739  
春日部福音自由教会 山田豊

本日の説教題は、羽鳥純二先生による「初めて聖書を聞く人のための12のステップ」から、ステップ4「神からの救い主」にある小見出しから借用したものです。

クリスマス、主のご降誕物語は、まさに神がイエスという人となって世に現れてくださった出来事です。神が人間となる不思議、人でありながらどうして神と言えるのか、まことに不思議なことが聖書に書かれています。

「ふしぎ」という日本語は、英語ではワンダー(素晴らしい世界)、ミラクル(奇跡)、ミステリーなどといい、クリスマスの意味を表すのに、良い言葉であると思います。神学用語では、ヨハネ 1:14に「言葉は人(肉)となって」とあることから、受肉(インカーネーション)と言われます。イエスが全き神であるとともに全き人間であることが、クリスマスの深い意味を伝える言葉となっています。

どうして神が人となるようなことが起きるのでしょうか。羽鳥先生のテキストには、「神にはどんなことでもできます」(マタイ 19:26)というイエスの言葉を引用するしかない、と書かれています。そのとおりですね。また、どのような人となったかという、ユダヤ人の男性であるイエスという生身の人間になられたのでした。しかしこのイエスは、人が顔をそむけるほどひどい仕打ちを受け、最後は十字架にかけられ、処刑されたのでした。それは、9節にあるように、人を救う神の愛の表れでした。神はその姿を捨てて、私たちと同じようにならなければ、私たちを救うことはできなかったのです。イエスは神と人との間に立つ仲介者であり、罪をとなりなす祭司でもあったのです。私たちの弱さをも知って、それを負ってくださることがおできになるのです。

小学生のころ、地域の子供会で大きな温泉プールに行きました。ところが、泳いでいる途中で足がつかなくなり、おぼれてしまいました。ちょうどプールサイドにいた一人の青年が、バタバタしている私を引き上げてくれて、助かりました。彼がいなかったら…、と思うとちょっとぞっとしてしまいます。

イエスは人となられた神、救い主です。私達を罪の底から救い出してくださるお方です。神が人となるふしぎは、「あるクリスマスの出来事」という詩に良くあらわされていると思います。神のワンダーランドで、神がともにてくださることを深く感謝したいと思うのです。

引用聖句

ヨハネ 1:14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。

マタイ 1:23 「見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」それは、訳すと「神が私たちとともにおられる」という意味である。

マタイ 19:26 イエスは彼らをじっと見つめて言われた。「それは人にはできないことですが、神にはどんなことでもできます。」

イザヤ 53:3-5 彼は蔑まれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で、病を知っていた。人が顔を背けるほど蔑まれ、私たちも彼を尊ばなかった。4 まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みを担った。それなのに、私たちは思った。神に罰せられ、打たれ、苦しめられたのだと。5 しかし、彼は私たちの背きのために刺され、私たちの咎のために砕かれたのだ。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされた。

Ⅱコリント 8:9 あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです。

ヘブル 4:15-16 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんでしたが、すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。16 ですから私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、折にかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。

山ちゃん先生の救い 小学生のころ@赤倉温泉プール

絵:沼田久美子



①



②



③

2



④